Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

HDS026-08 会場:101 時間:5 月 22 日 16:00-16:15

津波警報を解除するタイミングに関する研究の現状と展望
Present research status and foresight on timely cancelation of tsunami warning

林 豊 [1*]
Yutaka Hayashi[1*]

[1] 気象研究所
[1]Meteorological Research Institute

本発表では、津波警報の解除に関わる研究の現状をレビューするとともに、適切なタイミングによる津波警報を実現するための研究の将来展望を述べる．

現在の津波早期警戒情報においては，津波注警報を適切なタイミングで解除することが，防災関係機関から最も改善を期待されている課題である．しかし，現在の津波数値計算技術では，長時間の津波伝播を正確には予測できないうえに，減衰過程を把握して適切なタイミングで津波注警報を解除するための基準も存在しない．しかも，津波減衰過程の特徴を定量的に把握する解析手法の開発も不十分な状況にあった．このように高いニーズに応える技術の欠如が，遠地地震津波の予測における最大の問題であった．

最近，津波振幅の平均的な時間変化傾向（トレンド）と，津波振幅とトレンドとの違いの確率論的な性質（ばらつき）の二つの視点から津波減衰過程の特徴を記述する方法が開発されたことなどによって，地震津波の注警報解除の適切な判断基準を設定する問題の解決に向けた，一つの道筋が明確になってきた．

問題解決への近道は，実事例における津波の長時間波形の特徴を記述することに焦点を当てた事例解析を積み重ねて，減衰過程の特性を系統的に把握するという観測・解析からのアプローチで津波減衰過程の予測可能性を高めていくことだと考えられる．また，このような研究は同時に，数値計算で津波の減衰過程の再現を試みるために，あるいは，現実の津波に適用しうる理論を構築するために，減衰過程におけるどのような特徴の再現を目指すべきであるかを示すことにもつながる．

キーワード: 津波警報, 警報解除, 津波減衰過程, 津波コーダ
Keywords: tsunami warning, cancelation of warning, tsunami decay process, tsunami coda